

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成21年 1月

(平成20年12月末調査)

平成21年1月19日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266 (23) 4567

FAX 0266 (23) 8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【11月】	諏訪公共職業安定所管内	0.96倍	△0.35ポイント
手形交換高【12月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	11,249枚	+1,784枚
	金 額	15,402百万円	3,163百万円
	うち不渡り	1枚	±0枚
	発生状況	425千円	△4,575千円
電力使用量【12月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	59,430 MWh	△9.4%
	高压電力計	101,359 MWh	△8.7%
	合 計	160,789 MWh	△8.9%
車庫証明取扱件数【12月】(諏訪地方合計)		846件	△4.7%
新設住宅着工件数【20年4月～11月】(諏訪管内)		1,121戸	+2.7%

地域の概況

●製造業

自動車部品の下請企業は、メーカーの国内外での販売不振による在庫調整や生産調整により、受注は急激に減少している。また、工作機械・専用機関連も自動車向けを中心に受注は大幅に減少している。金属製品加工でも受注不足がみられ、デジタルカメラ関連企業も親会社の生産調整から生産は低調となっている。

世界的な景況の悪化や円高の影響等から日本の大手企業の生産は減速しており、諏訪地域の製造業も大手企業の減産や中堅企業の内製化の影響等から、12月の生産・受注状況は11月よりもう一段の悪化となった。

なお、当地域においても受注の減少に伴う派遣社員の契約解除や週休3日制などの完全休業日の設定を実施する企業がみられ始めた。

●商業

諏訪地方の12月の天候は、冬型の気圧配置となる日が少なかったことから、まとまった降雪がなく気温は平年よりかなり高かった。

衣料品は、降雪がなかったことや気温が高かったことから防寒衣料等の冬物商品の動きは低調となった。食料品は客単価の低下はみられるものの、消費者の内食志向の高まりを受けて売上高は前年並みを維持している。

お正月の福袋等の販売では、お得感の高い商品や小額な物の動きは良好であったものの、消費者の選別の目は厳しく、高額な物の動きは低調であった。

●観光業

諏訪地方の12月は、冷え込みが弱くまとまった降雪もなかったことから、各スキー場のオープンは昨年より幾分遅くなった。12月のスキー場への入込み客はオープンの遅れなどから、幾分減少した模様であるが、霧ヶ峰スキー場では「エアボード」の専用コースを新設するなど、集客増加のために各スキー場は様々な取組みをはじめている。

各ホテル旅館の宿泊客数は、前年並みから△10%減少のところが多くきかれ、法人需要の落ち込みから忘年会、新年会のキャンセルや客単価の低下がみられるなど、景況感の悪化の影響が及んでいる。

また、年末年始（12月31日～1月3日）の諏訪大社への参拝客は、上社が20万7千人（前年比0.5%減）、下社が13万人（前年比8.8%減）となった。

●建設業

市町村の12月の発注工事は、建築工事2件18百万円、土木工事・下水道工事41件192百万円、その他工事12件22百万円の合計55件233百万円で、前年同月比では±0件、40百万円の増加となった。県関係の12月の公共工事（地元業者発注分）は、29件509百万円で、平成20年4月～平成20年12月の累計契約は172件3,786百万円と前年同期累計比では△6件、△2,182百万円（前年比△36.5%）の減少となった。

民間工事は、諏訪地方の11月の新設住宅着工件数は143戸で前年同月比では△14戸（△8.9%）の減少となった。

●雇用

諏訪地域の11月の有効求人倍率は、前年同月を△0.35ポイント下回り0.96倍と平成15年9月以来、5年2ヶ月ぶりに1倍を下回った。同倍率は、対前年比で14ヶ月連続して低下している。なお、全国の同倍率は0.76倍、長野県の同倍率0.81倍となっている。

また、諏訪地域の11月の新規求人（全数）は893人で前年同月比△382人（△30.0%）の減少、新規求職者数は798人で前年同月比123人（+18.2%）の増加となっている。

新規求人数は、ほぼ全ての産業で落ち込んでおり、なかでも地域の主力産業である製造業全体では対前年同月比△62.1%と大幅な減少となっている。

なお、製造業において受注の減少に伴う派遣社員の契約解除や週休3日制などの完全休業日の設定を実施する企業がみられ始めた。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板	デジタル家電向けの減少等から、生産は大幅に減少している。
コンデンサー	自動車向けが減少している。
プリンター	OAの需要が弱含んでおり、受注は減少している。
コンダクター・リレー	受注状況は比較的堅調である。

2. 輸送用機械

自動車	国内外のメーカーの販売不振による在庫調整や生産調整により、受注は急激に減少している。
ピストンリング・シリンダーライナー	自動車メーカーの生産調整により、下請企業の受注は大幅に減少している。
船外機	新興国の需要により、生産は堅調である。

3. 一般機械

工作機械・専用機	自動車向けを中心に受注は大幅に減少している。
搬送用機械	食品関連向けは比較的堅調であるが、デジタル家電関連向けが減少している。
金型	受注は大幅に減少している。
ダイカスト	自動車向けは減少しているが、ガス器具等で堅調なところがきかれる。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	<p>全国のデジタルカメラの11月の生産台数は1,119万台で、前月比△18.3%減少、前年同月比△2.3%減少となっている。11月の出荷台数は国内出荷119万台、海外出荷1,034万台で、出荷台数全体では前月比△15.1%減少、前年同月比0.3%増加となっている。(カメラ映像機器工業会：2008年1月分から統計参加企業が増加したことにより、「対比」の定義が厳密ではないため、前月比、前年同月比の数値はあくまで「参考値」とする。)</p> <p>親会社の生産計画の見直し等から、下請企業の受注は大幅に減少している。</p>
プロジェクター	海外生産が中心であり、国内の部品加工は減少している。
レンズ	親会社の生産計画の見直し、生産の延期があり受注は減少している。

5. 織 維

ニット

春物商品の生産に移っているが、問屋等の在庫圧縮の動きから見込み生産が少なくなっている。

6. 食 品

寒天

荷動きは堅調であり、今冬の寒天製造は適度な冷え込みと雪が少ないため順調である。

味噌

出荷状況は平年並みである。

7. 製 材

諏訪地方の11月の木造住宅着工件数は122戸で、前年同月に比べ23戸増加した。木材の動きは低調なもの、建材には幾分の動きがみられる。外材や断熱材の価格は、値下がりしてきている。

8. 建 設

公共工事

12月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、発注機関別に諏訪建設事務所16件、林道治山工事関係5件、農地整備課5件、その他3件の合計29件、契約金額509百万円となっている。平成20年4月～平成20年12月の累計契約は172件3,786百万円で前年同期累計比では△6件、△2,182百万円（前年比△36.5%）の減少となった。市町村の12月の発注工事は、建築工事2件18百万円、土木工事・下水道工事41件192百万円、その他工事12件22百万円の合計55件233百万円で、前年同月比では±0件、40百万円の増加となった。

民間工事

諏訪地方の11月の新設住宅着工件数は143戸で前年同月比では△14戸（△8.9%）減少と改正建築基準法の影響のあった昨年を下回った。利用関係別では、「持家」70戸、「貸家」68戸、「分譲」4戸、「給与」1戸で、昨年に比べ「持家」が減少し「貸家」が増加した。景況感の悪化に伴い、建設計画の先送りやキャンセルがきかれる。

9. 商 業

諏訪地方の12月の天候は、冬型の気圧配置となる日が少なかったことから、まとまった降雪がなく気温は平年よりかなり高かった。

衣料品は、降雪がなかったことや気温が高かったことから防寒衣料等の冬物商品の動きは低調となった。食料品は客単価の低下はみられるものの、消費者の内食志向の高まりを受けて売上高は前年並みを維持している。

お正月の福袋等の販売では、お得感の高い商品や小額な物の動きは良好であったものの、消費者の選別の目は厳しく、高額な物の動きは低調であった。

衣料 降雪がなかったこともあり防寒衣料の動きは低調であり、衣料品全般でも消費者の買い控えがきかれる。

食料品 客単価の落ち込みはきかれるが、消費者の内食志向の高まりから来店回数が増えており、売上高は前年並みとなっている。

家電製品 販売価格の低下もあり薄型TVの動きは比較的堅調であった。

自動車 諏訪・岡谷を合わせた12月の車庫証明件数（軽自動車除く）は846台で前年同月比△42台（△4.7%）の減少となったが、長野県全体の前年同月比△30.0%よりは減少幅が小さくなっている。

ホームセンター 生活必需品や年末年始商材は前年並みの動きであったが、降雪がなかったことから除雪用品の動きは弱かった。

10. 観 光

諏訪地方の12月は、冷え込みが弱くまとまった降雪もなかったことから、各スキー場のオープンは昨年より幾分遅くなった。12月のスキー場への入込み客はオープンの遅れなどから、幾分減少した模様であるが、霧ヶ峰スキー場では「エアボード」の専用コースを新設するなど、集客増加のために各スキー場は様々な取組みをはじめている。

各ホテル旅館の宿泊客数は、前年並みから△10%減少のところが多くきかれるが、法人需要の落ち込みから忘年会、新年会のキャンセルや客単価の低下がみられるなど、景況感の悪化の影響が及んでいる。

上諏訪温泉 総体での宿泊客数は前年並みから△10%減少の模様であるが、法人需要の落ち込みから忘新年会のキャンセルや客単価の低下がきかれる。

蓼科・白樺湖・車山 ホテル旅館により区々であるが、年末年始の宿泊客数は前年並みとなった。

下諏訪温泉 日帰り宴会の減少がきかれる。

諏訪大社 上社・下社合わせた12月の参拝客数は28千人で、前年同月比△1千人の減少となった。また、年末年始（12月31日～1月3日）の参拝客は、上社が20万7千人（前年比0.5%減）、下社が13万人（前年比8.8%減）となった。

トピックス

社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）のご協力をいただき、2009年の「電子工業の国内生産見通し」（2008年12月22日発表）を掲載いたしました。

－電子工業の国内生産見通し－

2008年の電子工業の国内生産額は、19兆3,593億円（対前年比96%）と3年ぶりに20兆円を割り込み2年連続のマイナスを見込んだ。2009年も19兆0,387億円（同98%）と、わずかではあるがマイナスを見通した。薄型テレビやBDレコーダなどの製品は2011年の地上デジタルテレビ放送への完全移行に向けてプラスで推移するものの、国内生産規模の大きな半導体や電子部品、携帯電話のマイナスが大きく響くものと見通した。

国内経済は、世界的な金融危機の拡大を背景に、2008年後半より急速に減速している。急激な円高は企業収益を圧迫して設備投資の減少や賃金抑制を招き、さらには個人消費の伸び悩みにつながる懸念されるなど、厳しい状況が続くと思われる。また、2002年以降、プラス成長を続け、電子工業輸出を牽引してきた電子部品・デバイス部門の輸出が2008年は7年ぶりにマイナスに転じる見込みである。

そのようななかで2008年における電子工業の国内生産額は、19兆3,593億円（対前年比96%）と3年ぶりに20兆円を下回る見込みとなっている。これはディスプレイデバイス分野では二桁成長を見込むものの、新販売方式導入による影響がでている携帯電話（対前年比85%）や、世界的なデジタル製品の普及拡大の恩恵を受けてきた半導体（同93%）、電子部品（同92%）のマイナスが影響する見込み。

2009年の電子工業における国内生産額は、19兆0,387億円（対前年比98%）と3年連続のマイナスを見通した。薄型テレビやBDレコーダなどの製品は、2011年の地上デジタルテレビ放送への完全移行に向けてプラスで推移するものの、電子工業全体では景気悪化による購買意欲の低下の影響は避けられず、価格競争の激化によりさらなる海外生産への移行も見込まれる。国内生産規模の大きい半導体での輸出の不振も懸念される。

電子工業全体では、日系企業の国内生産比率は2008年の44%で、特に高度な信頼性や品質を要求される分野では高い水準を維持すると見通した。2008年の日系企業の国内生産比率の高い製品分野は、半導体（日系国内生産比率77%）、ディスプレイデバイス（同74%）、電子計測器（同74%）、サーバ・ストレージ（同69%）と見通した。